

信友会歴史 二

翌四三年七月十日は秀英会各地  
 出版所國文会東京印刷会社三喜社  
 至出版可等の友志を擁し歐文会との  
 間は二つの有力な協約が結ばれ十日  
 三の神田船場離れに於ける平社同文会は  
 然物約を可決し其第一項は國文会を  
 擁護する友志を擁し歐文会を  
 以て之に充つる事とある  
 出北は本に於けるコクテイザバニテ  
 の唯一の増刊例である後を禁何ゆへに  
 又然聖子四年十月雑誌雑誌は  
 大同盟展業が起つた理信会副  
 幹軍長金子清(即ち)が起訴された  
 裁判の経緯は重くともうた  
 出の時の展業資金に才多量充  
 部不届仕の聲高揚人波瀾を醸成  
 の危機迫る。翻案した事にも  
 爲副幹重長は既に故きを遷ぼ  
 大正三年歐洲戦の勃發に因り三副  
 並支央業者を生出し細名の不振甚だしく  
 来四年十月至平の高橋川崎は諸君  
 来四回文会を終機張の泰然停止せ  
 決議に会務の執行は年絶之地方